

札幌市立新光小学校の取組

1 道徳科の指導について

・授業づくりのポイント

本校では、昨年度 2 回、今年度 1 回、道徳教育研修を行い、教科化に向けて道徳科の学習の在り方や評価について教員間で考えを深めてきた。昨年度 1 回目の研修の際、本校の道徳科の学習で大切にしたいポイントを 3 つ確認した。1 つ目は、「ねらいを明確にした学習を構想すること」、2 つ目は、「主発問を吟味して学習を構想すること」、3 つ目は、「評価をするために何か残せるものを用意すること」である。昨年度の 1 学期から確認してきた内容なので、教員間でもかなり意識されてきている。教師が指導観を明確にした上でどのような学習活動を展開していくかを考え、その学習でどのような児童の見方や考え方を引き出していくのかを考えることを大切にしながら、日々道徳の授業づくりをしている。

・多様な学習展開

本校では、前述した通り、学習の展開部分で子どもたちにどんなことを考えさせたいかを明確にした上で道徳科の学習を構想することを大切にしている。その中でも、展開部分を「場面発問型」と「テーマ発問型」の 2 つのパターンに大きく分け、多様な学習展開で学習を構想するようにしている。「場面発問型」の学習は、教材の登場人物の行動や気持ちを問うことで、ねらいとしている道徳的価値に迫っていく学習展開である。ねらいとしている道徳的価値に子どもの考えを導きやすい反面、多面的・多角的な考えを引き出しにくい。「テーマ発問型」の学習は、本時のテーマとなる道徳的価値について直接的に問う学習展開である。子どもが自分の価値観で語り、多面的・多角的な考えを引き出しやすい反面、考えが拡散してしまい、ねらいとしている道徳的価値についての考えが収束しにくい。その日の学習が、子どもの考えを「広げる」学習なのか、「深める」学習なのか、教材とその学習展開を担当がしっかりと吟味したり、子どもの実態や 1 年を通して身に付けさせたい力と照らし合わせたりしながら、年間 3 5 (3 4) 時間の道徳科の学習をバランスよくコーディネートしていくことが大切である。今後、教員間で教科書教材の実践例などを交流することを通して考えていく。

・学習指導における配慮事項

子どもが主体的に多面的・多角的に考え、自己の生き方について考えを深めることができるような学習をするための学習展開の工夫の 1 つに、「子どもの実態に合わせ

て教材化すること」があると考え。しかし、教科書教材のどれもが子ども1人1人の実態に合っているとは言い難い。そこで、本校では、来年度の年間指導計画作成段階において、今年度教科書を使って学習したことを振り返り、学校行事や学級の実態に即して学習指導計画を立て、道徳科の学習を実践していくとともに、子どもの実態から離れた教材でも、児童を惹きつけ、魅力ある学習展開にできるような工夫を校内研修の機会を通して、教員間で考えていく。

2 道徳科の評価について

・評価の工夫と留意点

本校では今年度の校内研修で、評価の観点や方法について共通理解を図った。特に、「道徳性の評価」ではなく「児童の学習状況と道徳性に係る成長」を評価すること、学習指導要領に示されている「7つの観点」を例にして1年間の学習を積み上げていくことを確認した。また、日々の道徳科の学習では、校内で統一したワークシートを用い、そこに書かれた児童の考えや学習中の活動の様子を基に、各担任が大きくくりのまとまりで評価している。

・校内で共通理解を図るための手だて

7月に校内研修を開き、評価の方法を教員間で確認した。次年度は、それぞれの担任が書いた記述を見合ったり、いろいろな例文を見合ったりしながら、児童の学習活動の見取り方や保護者への伝え方、学習展開の工夫について研修の機会を通して考えていきたい。